



# 菩提樹

佛さまに育てられる年輪

第9号 平成23年4月発行



編集・発行

正法寺

山口市江崎2710

TEL

083-989-2213

FAX

083-989-5339

# 次代へつなぐ 大きな架け橋に

## 宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要 第十九世住職継職奉告法要

平成21年5月3日・4日





# 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

## 第十九世住職継職奉告法要を終えて



正法寺住職 眞城眞信

平成21年5月3日～4日にかけて厳修された二大法要では、本当に多くの御門徒の皆様の御報謝の下、如来様の働きに包まれた尊いご縁を営ませていただきました。

浄土真宗の寺院は、そこに所属するご門徒一人一人の後生の一大事を解決する場であり、最終的な人生の拠り所となつていかなくはなりません。日本の社会状況は、著しく変化してきています。今まで、当たり前のようにならぬ親から子へと受け継がれてきたものが、簡単に途絶えていく現状があります。お寺も例外ではありません。私達のご先祖の方々が、どのような思いでお寺を護り、現在の私達に遺してくださったのかを、今改めて問われているような思いがします。

多くの命がある中で、自身の生を問う死を問うていくのは、人だけです。それだけに人類には、他の動物には決して見ることが出来ない豊かな精神文化

が発達しました。この度のご法要に御講師としてお越しくださった梯実圓和尚が、「人類の精神文化は、偉大な死によつて創られてきた」とお話くださったことがあります。浄土真宗のご門徒の方々は、お念仏を喜ぶ両親や祖父父母の姿を通して、この「偉大な死」を目の当たりにしてきたのではないのでしょうか。

今、家族は、バラバラに暮らすことが多くなり、死もほとんどがお仏壇のない病室のベッドの上で迎えるようになりました。子や孫が、お念仏を申す両親や祖父父母の姿を近くで感じる事ができなくなつた今、お寺が果たす役割は、いよいよ大切なものとなつていくはずで

この度の二大法要が、次代の人々への大きな架け橋となつていきますよう、共に、改めてお寺の意味を味わい、お念仏に薫る日暮しを心がけていきたいものです。

合掌

### み教えを子や孫に



総代会々長 松村哲男

一昨年、親鸞聖人七五〇回大遠忌並びに正法寺第十九世住職 釋眞信師継職の慶讃のご法要が多数のご門徒の参詣のもとに、荘厳に営まれましたことは、まことに喜びにたえません。念仏のみが生きる道として歩まれた聖人のみあとを讃仰する私たちです。五十年に一度という、一期一会のご勝縁に遇わさせて載けた法要でした。

重ねて、当山ではこの度、眞信様が法灯をお継ぎになられ、門信徒一同あげての喜びの大法要を、皆様と共に営むことができました。

この尊いご勝縁を大切に、門徒一同念仏薫る家庭の継承に努めて参りましょう。

今年も毎月発行されている「住職の日記」は、とても具体的に法義をお示しして

下さり、教えられることの多い日々です。現在、住職様は、山口南組の青少年部会で「キッズサンガ」を担当されています。

「キッズサンガ」が実施される中で、お寺が子どもから大人まで集う、真の「サンガ」となり、阿弥陀様のおこころがすべての人に届くことを願っております。正法寺の日曜学校には、住職様・坊守様を中心に仏婦の方々も協力されて、「仏の子」の育成に力を注いでおられます。このように、正法寺のご法義繁盛に懸命に取り組んでおいでのご住職様と坊守様です。

私共門徒一同力を合わせ、お念仏の輪が、若い世代へ、次の世代へと、波紋のように広がっていくように努めようではありませんか。

合掌



# 二大法要のご縁をいただいで

仏壮会長 泉 専六

仏教壮年会の二員として、法要に向けての準備からかわらせていただきましたが、今ふり返れば、私にとって大切なものに遇うことができた時ではなかったかと思えます。

祝賀会の準備・運営、駐車場の案内など懐かしく思い出されます。やはり、帰敬式で「法名釋淳専」を頂いたことが、人生の節目と感じています。

反省として、最後の祝賀会の会場設営で、雨により会場が境内から急遽本堂に変更となり、皆様にご迷惑をおかけしました。しかし、参加者皆さんの盛り上げにより、素晴らしい祝賀会になったと思います。

ありがとうございます。



深溝 岩脇 利明

大法要のご縁に出会わせていただいたことは大変ありがたいことでした。

稚児行列に仏旗を持って行道させていただいたことは感慨深いものでした。行道の途中はただただありがたくて南無阿弥陀仏とお念仏を称えながら歩かせていただきました。

これからはご門徒がご住職様と二丸となつて正法寺を盛り立てていつて、各組織が今以上に活性化するように願う

ています。特に次世代を担う子供達の育つ正法寺であつてほしいと思います。老若男女問わず多くの方がお聴聞にお参りくださることを願っています。

下高根 上田 康子

一昨年の五月に厳修された継職法要での稚児行列に、娘と息子がそろつて参加のご縁をいただきました。

スタート地点へ移動中思い出されたのは、平成十五年の三大法要での稚児行列です。前方でお友達と歩いている娘はその時まだ三歳で、今回の息子のように私が手を引いての参加でした。前住職様、前坊守様もおられ、亡父、上田茂も元氣でありました。

いよいよ稚児行列が始まり、好天気のもと、厳かな笙の音、華やかな行列の中において、お寺の新しい幕開けへのお慶びの気持ちと偲ぶ気持ちが合さり、まさにご法縁に遇わせていただく日となりました。

前寺内 伊藤 瞳  
伊藤 霞

大法要の稚児行列に、日曜学校に通つた同級生四人で、天童子として参加させていただきました。たくさん

御院家様の側で、失敗しないようにと、ドキドキしながら歩きました。無事お寺に着いた時はホツとしたのを、今でも覚えています。

小学生最後の年に、このような大きなご縁にあわせていただき、とてもよい思い出になりました。

上高根 伊藤 優衣

私は、前にも一度同じような事をさせて頂きました。しかし今回は、前よりも、緊張しました。なぜなら、いろいろなお寺の住職さん方といつしよにさせて頂いたからです。

もう、二度とこのような、すばらしい事はできないかもしれませんが、この思い出は、ずっと忘れずに、覚えておきたいと思えました。





# 帰敬式

この度の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要をご縁とした帰敬式では、八十八名の方々が、その儀式に臨まれました。

私達は、生まれてからこのかた、自分を抛り所として様々な意味を味わっています。仏法では、自分を中心として自分を取り巻く世界を描き出している者を凡夫といいます。その凡夫である私が、如来様のみ教えに出会い、如来様を抛り所とさせていただくとき、そこには、新しい如来様を中心とした世界が開かれていきます。法名というのは、本来、このように精神的に新たな誕生を経験したときに、仏法の上から名付けられる新しい名前なのです。

帰敬式の受式は、決して死後の法名を生前に頂くことではありません。自分中心の殻を破り、如来様に彩られながら人生を歩ませていただく、その大切な人生の節目の儀式が帰敬式なのです。ぜひとも、命あるうちに帰敬式を経験させていたいただきたいものです。

(住職)

## 法名を頂いて

小郡 山本 恒夫  
山本 和美

釋大智・釋妙智のありがたい法名を頂戴したのを機に、自分の中で、何かが変わればとの思いから、朝夕仏前に手を合わせ、念仏することを心がけています。門徒としての自覚が、少しずつ深まっていく、そんな思いがしています。



98才の帰敬式 孫嫁さんと一緒に

前寺内東 釋證眞 松本 巖  
帰敬式を受式させて頂いた御縁に深く感謝申し上げます。

新たな人生のスタートとして、仏弟子としての自覚を持ち、日々の信心に励むとともに、自分自身が地域・社会のお役に立てることができれば幸いであると思います。

檢小野 釋大道 田中 泰三

恥ずかしながら帰敬式は、父に勧められ臨んだもので、生前に法名を頂くことくらいしか理解しておりませんでした。でも、今改めてその父が亡くなったことを機に、仏法に触れいろいろ学んでみたいと考えるようになってになりました。

東今津 蛭子 友子

この度、主人共々「法名」を頂き、このご縁めぐり合わせに感謝いたしております。この上は、家族そろってますます聞法にいそしみ、少しでも社会が明るくなるよう尽くして参りたいと思っております。



受式前の緊張が伝わってきます

## よろいびをい仏前で

お寺と言えば皆さんは、お葬式やご法事を思い浮かれる方が殆どだと思いますが、人生の節目節目をご仏前でお迎えになりませんか。

正法寺では初参式(しよさんしき)(五月二十日)・成人式(八月)・新婚さん初参り(二月)・仏前結婚式を行っています。ご家族の予定にあわせて個別にもお受けしております。その他入学式や卒業式の際、親子で奉告参拝なさる方や、先日はご親戚の皆さんがお集まりになり、白寿のお祝を本堂でなさった方もありました。

京都のご本山でもこのような記念参拝ができます。浄土真宗門徒として、人生の節目にご家族でご本山へ参拝されてはいかがでしょうか。

また、毎年小学四年生から六年生の児童を対象とした「児童念仏奉仕団」を山口南組が引率し、ご本山にお参りしています。お友達と一緒に参りした参加者の皆さんは「本当に楽しかった」とよろこんで帰って来られます。中には帰敬式を受けられる方もあります。今年七月二十八日二十九日の予定です。是非お孫さんお子さんにお声をかけてください。

各参拝の申し込みの詳細については、お気軽にお寺までお問い合わせください。

(坊守)



# ご懇志に感謝

## 記念事業「庫裡の改修」完成

このたびの大法要を機に、ご門徒の皆様にお願ひしたご懇志のおかげで、庫裡(門徒会館)の部屋が広くなり、とてもよろこばれています。

新しく、応接間(ピアノのある洋間)がガラス張りで見やすく整備され、客間や談話室としても利用できるようになりました。

とくに、法座の際のお齋(おしや)は、今まで廊下に並べて配膳の準備をしていましたが、今度はこの部屋が利用でき、廊下に並べる必要がなくなるととてもよろこばれます。

また、台所の横の畳部屋も少し広げていただいたおかげで、お齋等のうち合わせや準備、休憩、話し合いにもみんなが集まって利用できるようになり、とても好評です。

これで、前号で完成を報告した「境内東側側壁の改修」と合わせて、このたびの記念事業は計画通り完了することができました。ご門徒の皆様のご懇志に改めてお礼申し上げます。

(久保 實)



二階客間



応接間



台所横の控えの間



### 新総代さんの紹介

新会長 久保 實



担当地区  
・高根  
・各地区  
・幸の橋  
・上渡り

新副会長 有田 裕



担当地区  
・後寺内  
・上今津  
・今津ヶ丘

新会計 伊藤 公祐



担当地区  
・今井  
・玄珍  
・溝畑  
・原条  
・能楽

徳原 久



担当地区  
・藤河内  
・榎小野  
・厚東  
・花香  
・白木

原田 善和



担当地区  
・中野  
・嘉川上  
・江崎

泉 専六



担当地区  
・東今津  
・北の江

伊藤 嘉治



担当地区  
・前寺内

岩脇 利明



担当地区  
・深溝・唐樋  
・佐山  
・各地区  
・阿知須・巨

任期 平成二十三年四月一日～平成二十七年三月三十一日



# 報恩講にお参りしましょう

「報恩講」という言葉の意味は、「恩に報いる集まり」ということです。が、親鸞聖人の祥月命日である二月十六日を「ご縁」として、親鸞聖人の御恩を偲び、改めてお念仏のみ教えを聞かせていただく、浄土真宗門徒にとって、最も大切にすべき法要です。蓮如上人は、報恩講において親鸞聖人の御恩が感じられない真宗門徒は、木石に等しいとまで言われています。

正法寺においても、報恩講は、一年で最も大切な行事として、盛大に勤められてきました。昔は、報恩講の折には、正法寺の前に出店が集まってくるほど、参詣者で溢れていたそうです。報恩講の火が消えることは、お寺の火が消えることと同じことです。今は、忙しい日々を追われる社会状況になりました。しかし、忙しい中にも、真宗門徒である限り、せめて報恩講だけは参詣させていただき、如来様のお慈悲をよくよく聞かせていただきたいものです。

(住職)



# 報恩講におもむ

岡屋 徳地 壽子 91才

私の若い頃、戦後の何もない時代の報恩講には決って雪が降り二尺(30cm)近く積もった中を、長ぐつ、モンペ、婦人コート、白エプロンをかけ、婦人会の人はみんな同じ姿のご報謝でした。各家から持ち寄った大根、手づくり豆腐、雪の舞う外が大がまいつばいのケンチョウづくり。文子坊守様が「寒かったでしょう」と大火鉢に炭を入れ暖かくして下さいました事を思い出します。

総代 渡邊 禮二

今年、聖人七四九回忌にあたる御正忌報恩講、聖人のご遺徳を偲びお念仏をおすすめ下さったことへのご恩報謝のご法要です。金・土・日とお参りには打つつけの曜日になり三日間延四〇〇人くらいのご参詣であったと思います。

ご法要ではご院主様から御文章御正忌章のご拝読、「信心決定せよ」のお言葉。聖人のご遺徳を讃仰する御伝鈔のご拝読、その御絵伝は余間に掲げてあります。十六日は御俗鈔のご拝読、御正忌に参詣しない者は木石にひとしいと厳しいお言葉がありました。

私方のお取越は二月の下旬にお下がりをお願いいたします。お待ち

受けは先ず仏具のおみがき、昔は母がつとめていました。現在のようにみがき液はなく、石(軟かい石)を削った粉をつけてみがいていたことを覚えています。そしてお荘厳。

昔ご院主様をお迎えする日、おじいちゃんの下着を新しいものに替えて、藤河内の向うまでお迎えに行っていたと母が申していました。(私は白木の出身です)十四日からお精進、昔と同じけんちようが主なものです。

煩惱のかたまりのこの私に聖人からお念仏申せよ、申せよと願われています。形ばかりの報恩講ではなんの意味がありません。

聖人のお心を体しお念仏を申す日暮しをしたいです。





# 正法寺寺族の あるばむ



新発意が報恩講に初出勤しました。



寺内のお内仏報恩講で新発意が御文章を拝読いたしました。



継職法要で家族そろって記念写真を撮りました。



大好きなお雛様の前で。  
「ひなもん」は仏教婦人会の方が手作りして下さいました。

吉野のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に。



ご門徒さんが育てられた満開の菊の花の隣で...

## 新発意のつぶやき

法響もお陰様で今春、嘉川保育園の年長組になりました。毎日、大人の想定外の発想の言動で楽しませてくれます。中には、親が手を合わせたくなる言葉があります。その二つをご紹介します。十二月、父方の曾祖母が往生し、色々なことをゆっくり、少しずつ考えていた新発意。ある夜、消灯して布団の中で

**法響** あのね、ボクね、お母さんと(以下か)一緒にいない時も、ずーっとお母さんのこと思ってるよ。だから、ずーっと友だちだよ。

(以下母) 優しいね、やっぱりかす君は仏様の国から来たんやろうねえ。お母さんのところにきてくれて有難う。

**か** うん。そつだよ。ボクの体は仏様が用意してくれたんだもんね。  
**母** そつかあ。じゃあ、お礼言ってるよつか。

**か** ナマンダブツ。ナマンダブツ。  
**母** ナマンダブツ言ったらボクの心にひいおじいちゃん・ひいおばあちゃんが届いてくれるんよね。

**か** うん。いつまでも一緒だもんね。仏様。ナマンダブツ。  
坊守 育児日記より





仏婦大会 お弁当づくり



仏婦大会

仏婦の四季おりおり  
お念仏と共に



仏婦大会 うれしい昼食タイム



おみがき奉仕



初参式接待



花まつりサービス



日曜学校お手伝い



新会長  
久保 逸枝さん



前会長  
伊藤 一栄さん



報恩講 配膳



報恩講 お斎盛りつけ

八号から三年  
を経過してこの  
度の発行となり  
ました。  
二大法要をご  
縁として私たち  
人ひとりがさら  
にお法を深めて  
いきましよう。

編集  
後記



750回大遠忌から  
800回大遠忌にむけて  
タイムカプセルに手紙を入れよう!!  
(別紙にてご案内)

正法寺ホームページ <http://www.shouhouji.com/>  
「山口市正法寺」で検索して下さい。毎月更新しています。過去の菩提樹もすべて閲覧できます。